

# 阿弥陀さまをおがむ子どもを育てる

阿弥陀さまはいつでもどこでもそばにいてくださることを知る

阿弥陀さまは、お母さんのような仏さまです。  
願いに満ちて生きる子どもは阿弥陀さまを拝みます。

初夏の青空の風につれておよく鯉のほりを見ると、なぜか心がウキウキしてきます。幼稚園バスの園児たちもバスから見えると、丹屋根より高い鯉のほり…と大きな声で歌います。

5月5日は子どもの人権を大切にして、子どもの成長と幸せを願う「こどもの日」です。また、5月の第2日曜日は子どものことを真っ先に大切にするお母さんに感謝する「母の日」です。1人で母になることはできません。子どもあつての母であり、母あつての子どもです。母にとって子どもは他人事などではありません。

5月21日は親鸞聖人のお誕生日を祝う「降誕会」です。「降誕会」の「降」とはこの世に生まれられたのは、人々を迷いから救われる阿弥陀さまが来てくださっていますよと告げてくださる尊いお方だから「降」をつけてお祝いします。親鸞聖人は妻や子どもと一緒にナンダブを口に称えながら家庭生活を営まれました。阿弥陀さまのみ名を称える生活は阿弥陀さまがお育てくださっているおすがたであり、それをまわりの方々があなたを育ててくださる阿弥陀さまはナンダブですよと讃嘆して知らせてくださいています。

阿弥陀仏という仏さまは、あなたを第一番に大切に、あなたへのお慈悲の心は常にあなたが中心なのです。あなたがどれほど逃げようとしてもあなたに背を向けるようなことができないお母さんのような仏さまなのです。

お母さんが「気をつけてね」といいました。

わたしは「はい、いつてきます」といいました。

お母さんの言葉がつかえました。

学校にいるときもつかえました。

学校から帰るまでつかえました。

小学校1年生の作文です。「気をつけてね」という母の温かい言葉が子どもの耳から入って身体をつつんでいます。「気をつけてね」のお母さんの言葉の告げる意味を感じ取っています。「あなたは私の子どもです」という母の強い意志、勅命を感じて安心して喜びがあられている作文です。

いつでもどこでも口に称えるナンダブの仏さまをおもいながら、また、みんなで礼拝するなかでも阿弥陀さまを味わえるようになっていくのです。

母の心と子どもとの心の交流は言葉によってつながってゆきます。「語るは加たるなり」あるお寺の掲示板の言葉です。母と子の語らいが言葉を通して子どもに伝わるように、阿弥陀さまの呼び声のナンダブが満ちて礼拝する子どもに育ててくださいます。ナンダブ…

## まことの保育の願い